

学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程） 看護学領域 看護教育学分野	氏 名	ほり やすこ 堀 泰子
審 査 委 員	主 査 片岡 三佳 副 査 磯和 勲子 副 査 福録 恵子		
<p>（学位論文審査結果の要旨）</p> <p>新人看護師の医療安全に関する行動に及ぼす影響 Factors Influencing Newly Employed Nurses' Safety Behaviors.</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>本研究は、新人看護師が安全な行動をとることができるための、より効果的な医療安全教育の考え方や指導方法の示唆を得るために、新人看護師の特性（楽観性、悲観性、気楽さ、日常場面でのリスク評価とリスク敢行率）およびその他の要因：印象に残る経験、出来事の受けとめ、医療安全に対する認識、問題指摘に対する態度と、安全行動への影響および1年間での変化を検証したものである。</p> <p>方法は、予備研究として就職後2年目の看護師（231名に配布、回収54名）を対象に新人看護としての4月入職から翌年3月末までを振り返り、医療安全に対してどのような認識をもつようになったかを質問紙調査より明らかにした。その結果、入職当初の新人看護師は、【医療事故に対する悲観的な考え】【医療事故に対する楽観的な考え】などの認識をもち、1年後には、医療安全に対する「低い関心」から「高い関心」、「個人」から「チーム」へ、「漠然」から「判然」へと変化していた。</p> <p>本研究では、300床以上の総合病院に新規で入職した新人看護師（764名に配布、回収161名）を対象に、3回（7月、11月、3月）の自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、予備研究の結果をふまえて医療安全に対する認識項目（12項目）が作成され、新人看護師の特性：楽観性・悲観性（10項目）、気楽さ（5項目）、日常場面におけるリスク評価とリスク敢行率（12項目）や印象に残る経験（直接経験か間接経験か）とそれに対する感情（10項目）、問題指摘に対する態度（15項目）、安全行動（25項目）について、就職時から1年間の縦断調査を行い、その変化を検証した。</p> <p>概念枠組みに基づいて“安全行動”を目的変数とし、各変数からの影響をみるため</p>			

に共分散構造分析、時期による“安全行動”との関連の変化をみるために反復測定二元配置分散分析を用いて検討した。

結果、新人看護師の特性のなかでも“楽観性”のみが直接、“安全行動”へ有意な正の影響を与えていた。また、“日常場面におけるリスク評価とリスク敢行率”については“日常場面でのリスク評価・敢行率”が高いと“安全行動”は低く、“交通場面でのリスク評価・敢行率”が高いと“安全行動”は高かった。“安全行動”との経時的变化では、“悲観性”のみに有意な関連があった。7月（Time1）において、“悲観性低群”が“悲観性高群”に比べて“安全行動”得点が有意に高かったが、その後の有意差はなかった。

結果より、新人看護師に対する医療安全教育は、入職時の一律の集合研修にとどまらず、「楽観性」「リスク評価」などの個人の特性に合わせた内容や方法で、日々の実践の中で教育していくことに必要性を示唆した。

本研究は、新人看護師の医療安全に関する行動に及ぼす影響を明らかにし、具体的方策を検討した論文であり、学術上極めて有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。